

第 115 回実践勉強会 実施レポート

2020 年 2 月 4 日 大森日赤病院 講堂
共催 杏林製薬・キッセイ薬品工業

参加者 84 名

特別講演

「排尿障害の最新治療 ～診断から治療まで～」
東邦大学医療センター大森病院 泌尿器科 教授 中島耕一 先生

質疑応答

Q.

ボトックスは他領域では前から使われており、認知度も高いが、どうして泌尿器科での適応はこれだけ遅くなったのか？手技的にも簡単そうに思えたのだが、理由はあるのか。

A.

米国では前から適応があった。保険適応が遅くなったのは国が認めなかっただけである。

Q.

精神疾患を持たれた患者で頻尿症状も併発しているのが多く見られる。
そういった患者は泌尿器ではなく精神科への受診を促した方が良いか？

A.

昔は泌尿器でも SSRI など処方していたが、昨今は保険的にできない。
現在は心身的な問題の頻尿患者は精神科へこちらからもコンサルをしている。

文責:キッセイ薬品工業株式会社 牛山